

社会資本総合整備計画  
〔鹿児島市における区画整理による安全・快適なまちづくり（第3期）〕

事後評価シート

令和7年10月

(鹿児島県 鹿児島市)

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金） 事後評価書

令和7年10月

計画の名称	鹿児島市における区画整理による安全・快適なまちづくり（第3期）		
計画の期間	令和3年度～令和7年度（5年間）	交付対象	鹿児島市
計画の目標			

土地区画整理事業によって、道路・公園等の都市基盤施設と宅地を総合的かつ一体的に整備し、活力のある社会の形成と安全で安心して暮らせる快適なまちづくりの推進を図る。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・ 施行地区を校区に含む小学校の児童数を4,052人（R3）から4,090人（R7）に増加。
- ・ 施行地区内道路の整備計画区間における走行時間損失をR7までに43%削減。

定量的指標の定義及び算定式

	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (R3当初)	中間目標値 (R5末)	最終目標値 (R7末)	
要素事業として位置付けられている5地区を対象として、施行地区を校区に含む5小学校の児童数を調査する。	4,052人	4,070人	4,090人	
施行地区内道路の整備計画区間における走行時間損失（評価時走行時間と整備後走行時間の差）の削減率を算出する。 「走行時間損失の削減率」= { (R3当初における走行時間損失 - 評価時における走行時間損失) / R3当初における走行時間損失 } × 100 (%)	0%	42%	43%	評価時：R3当初、R5末、R7末の各時点 整備後：地区内全区間の整備完了時点

全体事業費	合計 (A+B+C)	1,912 百万円	A	1,912 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0 %
-------	---------------	-----------	---	-----------	---	-------	---	-------	---------------------------	-----

事後評価

○ 事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
・ 鹿児島市公共事業評価検討委員会（内部）での審議 ・ 鹿児島市事業評価監視委員会（外部）での審議	・ 令和7年10月 公表の方法 ・ ホームページ等への掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

A1 基幹事業											全体事業費 (百万円)	備考				
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）							
									R3	R4	R5	R6	R7			
A-1	街路	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	郡山中央地区（（都）松尾城線外）	区画整理 A=46.2ha	鹿児島市							310	
A-2	街路	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	吉野地区（（都）下田西菖蒲谷線外）	区画整理 A=114.1ha	鹿児島市							33	
A-3	街路	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	吉野第二地区（（都）館之馬場通線外）	区画整理 A=66.5ha	鹿児島市							344	
A-4	街路	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	谷山駅周辺地区（（都）南清見諏訪線）	区画整理 A=15.3ha	鹿児島市							566	
A-5	街路	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	谷山第三地区（（都）惣福御所下線外）	区画整理 A=34.9ha	鹿児島市							659	
									合計					1,912		

B 関連社会資本整備事業											全体事業費 (百万円)	備考			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）						
									R3	R4	R5	R6	R7		
									合計					0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

C 効果促進事業											全体事業費 (百万円)	備考			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）						
									R3	R4	R5	R6	R7		
									合計					0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		土地区画整理事業区域内において、都市計画道路を整備することによって、走行時間損失が削減され、区域内の交通機能が強化された。			
II 定量的指標の達成状況	指標① 施行地区を校区に含む小学校の 児童数	最終目標値	4,090人	目標値と実績 値に差が出た 要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた予算の中、都市計画道路の整備を優先して進める施工計画へ見直したことで、宅地整備及び使用収益の開始に遅れが生じたほか、人口減少による影響も重なって、当初目標を下回った。</li> <li>都市計画道路の整備を優先して進める施工計画へ見直したことで、当初目標を達成できた。</li> </ul>
		実績値	3,764人 (R7年度実績見込み)		
	指標② 走行時間損失の低減	最終目標値	43.0%	目標値と実績 値に差が出た 要因	
		実績値	43.9% (R7年度実績見込み)		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 特記事項（今後の方針等）					
今後も引き続き、土地区画整理事業により、道路・公園等の都市基盤施設と宅地を一体的に整備し、活力ある社会の形成と安全で安心して暮らせる快適なまちづくりの推進を図る。					

※用語の説明

使用収益開始とは・・・整備された宅地を土地所有者などが使用可能となること